

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 安城市総合交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国交補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備 内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業に おいて、車両減価償却費等及び公有民営方式車 両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている 場合、離島航路に係る確保維持事業において離 島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を 受けている場合は、その旨記載】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通 確保維持改善計画に反映さ せた上で事業を実施したか を記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実 施されたかを記載。計画どおり 実施されなかった場合には、理 由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的 な目標・効果が達成されたかを、 目標ごとに記載。目標・効果が 達成できなかった場合には、理 由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記 載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地 域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果 を生活交通確保維持改善計画にどのように反映 させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載 すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその 旨記載
名鉄バス(株)	あんくるバス 循環線右まわり・左まわ り 安城更生病院～JR安城駅～安城更生 病院	・バスロケーションシステム 等による情報提供やバス案 内人、バス活用ガイド等によ り、利用促進を引き続き実施 した。 ・バス利用実態調査を実施 し、安城市の課題を整理す るとともに、次年度策定予定 の地域公共交通計画へ反 映する。	A 計画どおり事業を実施した。	C 循環線の利用者数は、右まわり が77,624人、左まわりが76,801 人で、合わせて154,425人とな り、目標値である195,500人を下 回った。利用目的は通勤通学や 通院の割合が高い路線である が、新型コロナウイルス感染拡 大の影響により、外出抑制やテ レワークなどの働き方の変化に より利用者が減少したことが考 えられる。	・令和3年度に実施したバス利用実態 調査及び令和4年度実施する市民アン ケートの結果をもとに、これまでの取組 みを評価するとともに課題を整理し、次 期計画に反映させる。 ・これまで取り組んできた利用促進事 業に改善を加えて継続的に実施するこ とで、利用者の回復とさらなる活性化を 図りたい。
東伸運輸(株)	あんくるバス 安祥線 川島～JR安城駅～川島	・バスロケーションシステム 等による情報提供やバス案 内人、バス活用ガイド等によ り、利用促進を引き続き実施 した。 ・バス利用実態調査を実施 し、安城市の課題を整理す るとともに、次年度策定予定 の地域公共交通計画へ反 映する。	A 計画どおり事業を実施した。	C 安祥線の利用者数は21,122人で あり、目標値である28,500人を下 回った。利用目的は通勤通学の 割合が高い路線であるが、新型 コロナウイルス感染拡大の影響 で、外出抑制やテレワークなど の働き方の変化により利用者が 減少したと考えられる。	・令和3年度に実施したバス利用実態 調査及び令和4年度実施する市民アン ケートの結果をもとに、これまでの取組 みを評価するとともに課題を整理し、次 期計画に反映させる。 ・これまで取り組んできた利用促進事 業に改善を加えて継続的に実施するこ とで、利用者の回復とさらなる活性化を 図りたい。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	安城市総合交通会議
-------	-----------

評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国交補助金
----------	----------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	目指す姿:「日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち」 ＜基本方針＞ ・多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化 ・将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化 ・公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開 ・みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化
-----------------------------	--

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画推進に係る事業)

令和 年 月 日

協議会名:安城市総合交通会議

①事業の結果概要	②事業実施の適切性		③事業の今後の改善点 (特記事項含む)
【事業内容及び結果概要を記載】	A・B・C 評価	【事業が適切に実施された(されている)かを記載。適切に実施されなかった(されていない)場合には、実施されなかった事項及び理由等記載】	【事業の今後の改善点として、取組内容・関係者それぞれが果たすべき役割等を記載。】
市内のバス情報をより多くの市民に知ってもらい、お出かけにご利用いただくため、あんくるバスの時刻表、バスマップの作成・配布を行った。 時刻表には、市内のコミュニティバス情報に加え、安城市が導入しているバスロケーションシステムの紹介や路線バス・鉄道など他の公共交通のダイヤを掲載し、市内外の約40ヵ所で配布し、公共交通利用の促進を図った。	A	計画どおり事業を実施した。	あんくるバスの乗り方教室等において、バス時刻表、バスマップ、バス活用ガイドを活用しながら、公共交通について周知し利用促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名:	安城市総合交通会議
-------	-----------

評価対象事業名:	地域公共交通調査事業(計画推進事業)国庫補助金
----------	-------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	目指す姿:「日常生活になじむ公共交通をみんなが利用することによって、気軽におでかけできるまち」 ＜基本方針＞ ・多様な交通手段が相互に連携した持続可能な公共交通ネットワークの維持・活性化 ・将来都市構造を誘導するために強化した公共交通軸の維持・活性化 ・公共交通への利用転換を図る各種施策の継続展開 ・みんなで取り組む仕組みの構築による持続可能な公共交通の実現・活性化
-----------------------------	--